

に、必要であろう。

そのために、マッチングテーブルの改良充実をする必要がある。事実、マッチングテーブルを若干充実してテストした結果、正読率が向上した。また、第4章の(iv)で述べた認識の第2段階をさらに増やす事により、正読率を高める事が出来よう。このような改善は、比較的容易に実施し得るものであるが、印刷のかすれなどは、不可避なので、正読率が99.9%以上にする事は不可能と考えられる。したがって、人手によるチェック・修正は必須であろう。一方、第4章で述べた方法とは全く異なる文字認識法によるクロスチェックを同時に行えば、正読率が著しく向上するものと考えられる。これは、今後の研究課題である。

この研究の実施に対して、トーアエレクトロニクス(株)および日本スクリーン製造(株)の多大の協力があつた事を付記して、謝意を表わしたい。

文 献

- Andreewsky, E., 1969: Research on pattern recognition in France, Methodologies of Pattern Recognition, Ed by S. Watanabe, Academic Press, New York.
- 橋本新一郎, 1982: 文字認識論, オーム社, p.258.
- Jenne, R.L., 1975: Data sets for meteorological research, Boulder, NCAR PB-246, 564, 194 p. NCAR,
- Panel on Data, 1980: Report of the panel on data, Tech. Conf. Climate Asia and Western Pacific, Proc. the Conf. Guangzhou, China, 15-20 Dec. 1980.
- 坂井利之・長尾 真, 1971: 文字・図形の認識機械, 共立出版(株), 172p.
- Selfridge, O.G. and U. Neisser, 1960: Pattern Recognition by Machine, Scientific American, 203, 60-68.

第22期第2回常任理事会議事録

日 時 昭和57年11月15日 9.45~12.00

場 所 気象庁観測部会議室

出席者 岸保, 松本, 荒井, 内田, 河村, 嶋村, 杉村,
竹内, 田宮, 二宮, 増田, 村山

議 題

1. 昭和58年度予算(案)について

前回の理事会で各理事から特に意見が出ていないので、原案にそつて更に検討することになった。

2. 昭和58年度春季大会について

来年5月18~20日に筑波の研究交流センターで開催することが報告された。シンポジウムは大気境界層を予定している。

3. 事務局職員の採用について

推薦された候補者に岸保理事長がそれぞれ面接を

行い、理事長を含めた選考委員会で最終決定をすることになった。

なお、事務局職員の任期について討論し、現行の8年を4年にするように内規を改めることになった。

4. 韓国文化センターへの学会誌の寄贈について

「天気」「気象集誌」を寄贈することが承認された。

5. その他

(1) 長期計画委員会の報告

長期計画委員会でまとめられた報告は、予算の許す範囲内で「天気」に掲載することになった。

(2) 熱帯気象学に関する地域科学会議

米国気象学会から記念のボールをいただいた。
承認事項 藤井 享ほか12名の新入会員を承認。